



知的探検うつくしま

今回のテーマ

ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインってなに？

すべての人が安全で安心して快適に生活できるような社会(まち)をつくる考え方のことです。子どもも大人も、男の人でも女の人でも、身体の不自由な人もそうでない人も、いろいろな人のことを考えて設計(デザイン)するのが、ユニバーサルデザインです。いわば、「思いやり」を社会全体で系統的に実現していこうということです。

なぜユニバーサルデザインが必要なのでしょう？

これまで、いろいろなものやサービスなどは、「健康な大人の男性」を対象としてつくられてきました。でも、実はこの「健康な大人の男性」に当てはまらない人はたくさんいるのです。

- 身体の不自由な人
- 自由に動けない人
- 国籍、言葉、文化の違う人
- 子どもや高齢者

ふくしまに住む人や訪れる人が、みんな日本語が得意なわけではありません。
誰でもはじめは子どもです。そして、誰でも年をとります。
2030年には3人に1人が65歳以上になると言われています。



ふくしま型ユニバーサルデザイン

県では、「思いやり」をシステム化」をキーワードに、ユニバーサルデザインに基づいたまちづくりやものづくりといった「かたちあるもの(ハード)」だけではなく、情報やサービス、そしてこのころのユニバーサルデザインなど「かたちのないもの(ソフト)」にも力を入れています。

こころのユニバーサルデザイン

お互いを理解し思いやる気持ち、それが「こころのユニバーサルデザイン」です。いくら設備が整っていても、つかう人のことを理解していなければ意味はありません。また、設備が整っていない場合でも、少しの手助けで解決できることもあります。

身近なユニバーサルデザイン

周りにあるユニバーサルデザインを探してみましょう。

- ・誰にでも利用しやすいトイレ
- ・自動ドア
- ・シャンプーボトルのギザギザ



身体の不自由な人にも使いやすいよう、十分な広さをとり、手すりをつけています。

Q みんなが快適に暮らすために、私たちにどんなことができますか？

A ユニバーサルデザインは誰かのためではなく、私たち自身が快適に暮らしていくために必要なものです。自分は健康だと思っても、病気やけがでいつもどおりに生活できなくなることもあるでしょうし、年をとれば体力も落ちていきます。
自分がいつも通っている場所でも、段差や障害物で困っている人がいるかもしれません。そんな人を見かけたら、勇気を出して「お手伝いしましょうか？」と声を掛けてあげてください。

県の取り組み

県では、「ふくしまユニバーサルデザイン推進指針(改訂)」に基づき、「意識づくり」「こころ」「暮らし」「まちづくり」「サービス」「情報」の7つの分野で、ユニバーサルデザインに取り組んでいます。



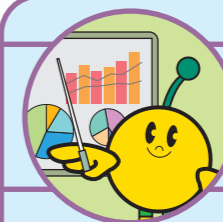
「ユニバーサルデザイン」イメージキャラクター



身体の不自由な人にも、荷物を持っている人にも便利な自動ドア



目を閉じていてもどちらがシャンプーかわかるよう、しるしがついています

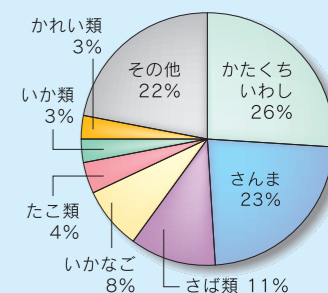


データでみるうつくしま

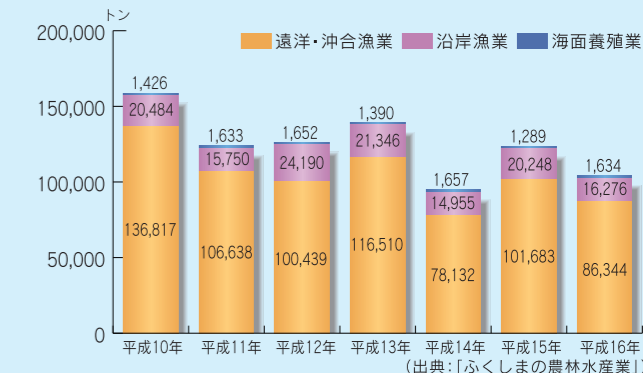
漁業編

「海の漁業(海水面漁業・養殖業)」をみると、福島県は南からの黒潮と北からの親潮がぶつかりあう良い漁場となっていて100種類を超える魚介類が水揚げされています。平成16年の県の漁獲量は、10万4千tで、全国第16位となっています。魚の種類別では、たこ類やほっきがいは第2位、さんまは第3位などとなっています。

海の魚の漁獲量の割合



海の漁業の漁獲量(平成16年)



漁港別では、相馬原釜漁港はたこ類が全国第1位、いかなごが第2位となっています。また、「河川・湖沼の漁業(内水面漁業・養殖業)」も盛んに行われ、特にコイ(養殖)の生産量は全国第1位で、郡山市が主な生産地です。(データ出典:「平成16年 漁業・養殖業生産統計年報」)

魚の種類別漁獲量の全国順位

品目	全国順位
こい(養殖)	1位
たこ類	2位
うばがい(ほっきがい)	2位
さんま	3位
いかなご	4位
かたくちいわし	4位
きれい類	5位
まだら	5位
さば	7位
ひらめ	9位



(出典:「平成16年 漁業・養殖業生産統計年報」)